

あつまれ！ 仲間たち

福知山市を中心に宮津、綾部などから山好きが集まるサークル「福知山山の会」。会員数は41人で、40歳から最高齢の82歳まで年齢層も広く、初心者からベテランまでキャリアもさまざま。月4回の例会のほか、観光を兼ねたバスハイクを楽しんだり、雪山登山やクライミングに挑戦したり、時には山でぜんざいや鍋を食べたりと、自然の中で過ごす醍醐味をあじわっている。

福知山山の会

問い合わせ

福知山山の会ホームページ
問い合わせフォームから
（「福知山山の会」で検索）

1998年7月、愛好家6人が集まり、会を発足させた。京都府勤労者山岳連盟に加盟する。

例会は、「運営委員」を中心に日帰りで行ける近畿圏内の山を選び、月1回発行する会報「ぼっか」で案内し、参加を呼びかける。例会とは別に、毎月第3火曜日には、「宍粟50名山」踏破にチャレンジ中で、ここ2年で半分ほどの数の山に登った。

モットーは「安心・安全」。会員のリーダーたちは、連盟が行う講習会に参加し、山岳技術の向上や知識の習得に努めている。登山の際には万が一に備えて、コンパスや簡易テント、ロープなどの装備を持参。会員の中で「留守番本部」を決め、参加メンバーや登山ルートを把握しておき、登山時と下山時には必ず連絡を入れる決まりにしている。

好きなときに気軽に参加できるのが同サークルの良さ。「登山を、ハードルが高く感じている人もおられると聞く。ぜひうちのサークルを“お試し”に使ってみて」と、金山誠のぶみち教会長（55）。スニーカーで登れる山に行くこともあるし、ペースが遅い人に合わせて歩き、体調が悪い人が出ればすぐ下山する。「いろんなレベルの人がいる。みんなでフォローすることを意識しながら、みんなが楽しめるサークル

です」とにこやかに語る。

金山会長自身、最初は低い山に登っただけで倒れそうになったという。徐々に回数を重ねるごとに体幹も鍛えられ、より高い山にも少しずつ挑戦できるようになった。「自分の足で登り切ったときには達成感があり、自然の中にいると前向きにもなれる。自分でもこんなにはまるとは思っていなかった。会の存在を知ってもらい、気軽に参加してもらえればうれしい」と話している。



白銀の世界。大江山で冬のスノーハイキング



「安全・安心」をモットーに登山を楽しむ会員たち。氷ノ山の三ノ丸ピークで、「ハイ、チーズ」。